

市内施設訪問記

ボヤマンマ

「よまゆまきのの」〜津久井やまゆりの園の今〜
井ノ口 ともみ 津久井やまゆりの園の今〜【後編】



2020年10月「津久井やまゆりの園」のあゆみや今目指す「よまゆ」具体的な取り組みを紹介しました。今回は園内での活動の場や力を入れている地域との交流について紹介いたします。

園長の永井清光さんと、支援部部長の岡崎美樹さんにお話を伺った。「よまゆまきのの」という言葉がただの理念ではなく、職員、家族、地域やボランティアの方々のための活動や支援「ササガ」を「実現化」をわっしょい感じました。

*運営方針の一つ「本人の望む生活の実現」に向けた日々の暮らし活動についてもご紹介いたします。

日中の主な活動は受注活動や農園芸、美化清掃、機維持、本人のし好に沿った個別活動です。野菜作りでは、種まきから収穫、袋詰めを行い、市役所での販売に出店して利用者さんが販売体験を行っています。また、廃棄材料から作る「オガチャッカ」という着火剤の制作販売などの園内での活動のほか、外部の通所事業所へ通っている利用者さんもあります。

その他、園がいろいろ考えた「よまゆまきのの」から、外部の生活を体験する「チャンネル」活動にも取り組んでいます。グループホームでの生活や通所に下



活動室 ↑
オガチャッカ →

る作業活動をしていただき、地域へ出て地域の人々と交流を重ねて本人の望む生活のイメージを作っています。

様々な経験・体験をする中で本人の可能性を最大限引き出し、その入り口は地域で暮らすことには「よまゆ」を目指す活動です。

利用者さんの自治会「よまゆの会」があります。園の運営会議や園祭の実行委員会にも参加、利用者さんの意見を反映させていきます。

*地域交流の取り組みも盛んに行っています。

相模湖地区社協の「ちよこっこのボランティア」の方ボランティア団体や個人でも訪問してくださる方もいます。また、個人で利用者さんの話し相手やお散歩の付添いなど交流したい地域の方々も訪ねられます。

地元自治会の「納涼祭」「運動会」への参加、園の「納涼祭」に地元子ども神輿が来てくれるなどの交流があります。また、園で麻溝公園ふれあい広場の動物たちとのふれあいイベントや童謡歌手のコンサートなどに地元木良小の子ども達が来園して参加することもあります。津久井支援学校とも連携して通所活動しています。グランドや施設を一部開放して地域の皆さんも遊びに来ています。

清潔で広々とした園内を案内していただきました。

日中活動は一段落ついた時間でしたが、活動室に置かれたものや掲示物には利用者さんの満ち足りた雰囲気を感じられました。

居住棟は、鳥の名前の付いたユニットに分かれ、全員個室。利用者さんが顔をのぞかせて「よまゆ」に挨拶してくれたり聴かせたりして隠れてしまったり。当り前の暮らしが当たり前に行われている。その裏には職員の方々に根付いた「意思決定支援」の姿勢があり、細やかな配

慮があることが伝わってきました。

玄関前には黒御影石の水鏡と献花台からなる鎮魂のモニュメントがあります。「鎮魂」「後世へのメッセージ」「偏見や差別のないよまゆまきのの園を目指す」「誓い」。そのコンセプトを込めたモニュメントです。献花台には、犠牲者を悼む「よまゆの花」の絵を彫り込ませ、「犠牲となった利用者のうち10名の御名前が、1遺族の希望で心に刻銘されています。

事件の後、悩みながら再建に尽力なさってきた永井園長と職員の方々。これまでの努力は実を結びつつあり、地域と連携を図りながら、利用者さんの望む暮らしの実現を目指して園運営に取り組まれています。世間では障がい者の虐待などの事件がまだまだ続いています。人々の中に美良の偏見や差別、すべて無くなることを願ってやみません。

(石関・小川・恒藤・杉崎)

犠牲者を思ふ「鎮魂のモニュメント」



水を張った「水鏡」は、空を映し出すデザインとなっている。



「やまゆりの花」の絵が彫り込まれた献花台

社会福祉法人 かながわ共同会 津久井やまゆり園
〒252-0174 相模原市緑区千木良 476
TEL : 042-684-3511
園長 永井 清光

